

平成二十九年一月二十三日

中共の最高指導者、二年半年前に一帯一路なる構想を立ち上ぐ。日本、朝鮮半島及臺灣を除く亞細亞全土、露西亞、歐州、阿弗利加北東部へのインフラ構築投資を通じたる、一帯經濟體及び一路經濟體より成る世界經濟圏建設の壯大なる構想なり。一帯は中國西部より中央亞細亞を経て歐州へ至る「絹の道」を意味し、一路は中國沿岸部より東南亞細亞、錫崙^{スリランカ}、亞刺比亞半島沿岸部、阿弗利加東岸へ至る「二十一世紀の海の絹の道」を意味すると云々。主たるインフラは海上輸送路、港湾、道路、橋梁、鐵道なり。平成二十八年十一月迄に五十六ヶ國が同構想に關する覺書に署名し、既に二十カ國・地域が具體的なる共同事業を實施中の由。同構想參同國及國際組織は計百以上に及ぶと云々。匈牙利・塞爾維亞^{セルビア}鐵道、中國・巴基斯坦^{パキスタン}經濟回廊を始め、西歐諸國との鐵道事業もあり。因みに、今月十八日には、中國より出發せる貨物列車が哈薩克斯坦^{タジキスタン}、露西亞、白露西亞^{ベラルーシ}、波蘭^{ポーランド}、獨逸、白耳義、佛蘭西を経て英國に到着せりとの報道あり。又、中國・獨逸、中國・西班牙を結ぶものもあり。更に、米日主導による環太平洋戰略的經濟聯繫協定（ティー・ピー・ピー）に對抗せんと創設せられたる亞細亞インフラ投資銀行（エイ・アイ・アイ・ビー）初の融資先となる孟加拉國、印度尼西亞、巴基斯坦、塔吉克斯坦にても、鐵道又は道路建設計畫あり。

昨年末、東歐某國にて一帯一路を主題とする國際會議が開催せらる。一帯一路の對外喧傳者たる中國人學者の他、印度及米國、並びに歐州より數多の參加あり。我、日本よりの唯一の發表者として日本の地戰略的状況に就き説明す。然れども、會議にての最大の關心事は一帯一路構想の背後にある最高指導者の野望、同構想の地理的範圍、各國・各地域、延いては世界に及ぶべき政治・軍事的影響等、何れも重要な戰略的問題なり。當然、注目及質問は中國人參加者に集中す。同學者、一帯一路に關する自著の英譯本を宣傳しつつ曰く「一帯一路は中國版マーシャルプランなり、最高指導者の「中國の夢」又は中國の再生を實現すべく、二〇二三年迄に中國主導の大經濟圏を形成し、地域及世界經濟の發展に貢獻するものなり。又、國內的要因としては過剰生産能力の對外移轉、國際的要因としては世界化及勢力均衡の潮流變化への對應の必要等あり。但し、對象地域に際限なく、米國及其の同盟國主導によるティー・ピー・ピーの如き強壓的なものにあらず、エイ・アイ・アイ・ビー等開放的なる多國間機關を基盤とする純開放的構想なり」と。

斯かる説明に對し、特に米國及印度の參加者は同構想の軍事的影響を懸念し、多くの歐州諸國の參加者も北大西洋條約機構及歐州聯合の更なる分斷への恐れを表明するも、一部の參加者は同構想の經濟的利益に注目し寧ろ是を歓迎す。

扱、同構想、日本に於ては、「自身の支配力を強化せむが爲の中共最高指導者の大風呂敷」、「經濟成長減速への國內不満へ對應せむが爲の單なる彌縫策」、「エイ・アイ・アイ・ビーの停滞により畢竟奏功する能はず」、等の樂觀論多し。勿論、同構想の二〇二三年迄の實現は難しと雖も、一部の鐵道事業は徐々に進展しつつあり、特に米國の世界關與の弱體

による地政學的變化の中、同構想を通じて次第に中共主導の世界秩序が實現すべし。日本の戰略的關心の中心は亞細亞太平洋地域にあるは自然なれども、一帯一路構想が有する、歐亞、中東、阿弗利加、更には世界秩序へ與ふべき含意に就きても、中長期的觀點より考慮する必要あり。(了)

(平成二十九年一月二十八日受附)